東大枝 史跡マップ

アクセス

東北自動車道国見 IC から 15 分
東北本線藤田駅から 10 分
阿武隈急行梁川駅から 10 分

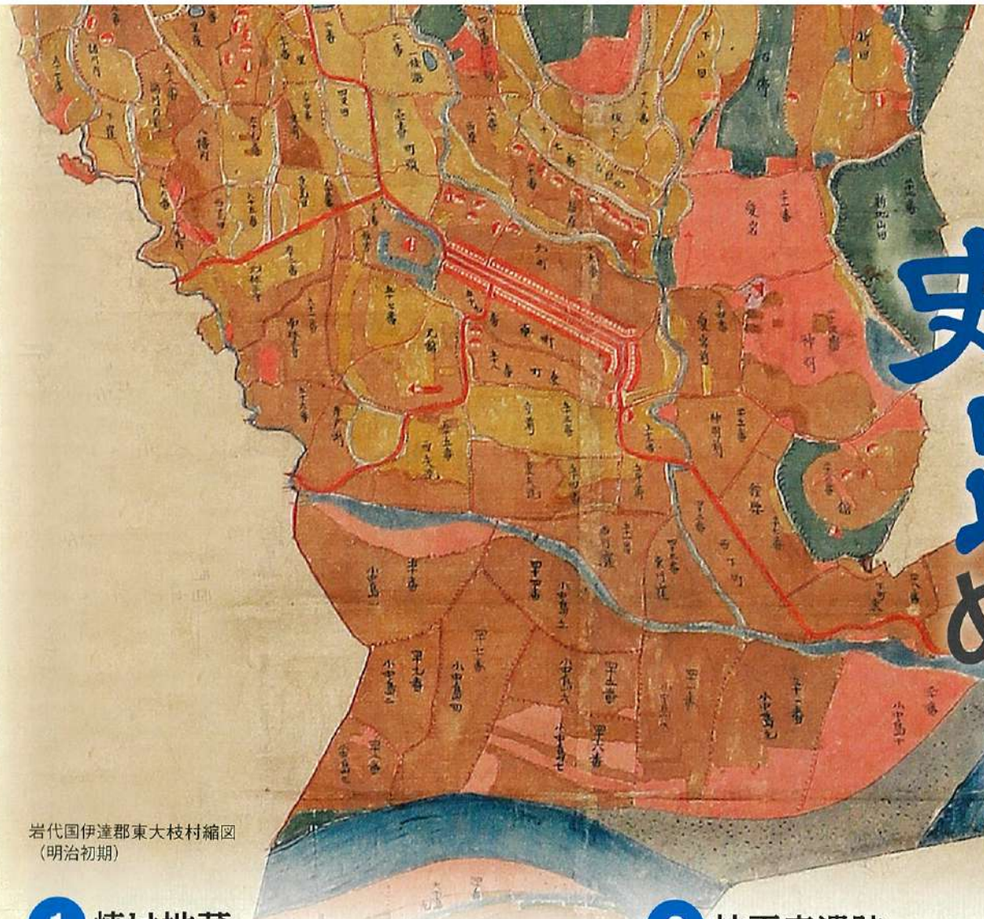
問合わせ

〒960-0702
伊達市梁川町東大枝字北町 132-1
東大枝地区交流館
電話 024-573-0111
FAX 024-573-0111

発行：東大枝自治会
※伊達地域づくり支援事業交付金にて制作。

おいしい米とくだものの里

東大枝の史跡めぐり



岩代国伊達郡東大枝村縮図
（明治初期）

1 焼け地蔵

昔、光明寺部落にあった地蔵様が大水で流されてきたので諸川内（もろこうち）の人たちがお堂を建てておまつりをした。ところが、お堂を何回建てても焼けてしまうので「焼け地蔵」と呼ばれるようになった。地蔵様の前の御手洗川（みたらしかわ）で目を洗うと、目の病気が治るといわれ遠くからも多くの人達が参拝した。

東大枝字諸川内　C-1

2 林正寺遺跡

縄文時代中期（4500年前）中心の遺跡。発掘調査でまわりの田や畑から、鉢や壺・土偶などの土製品、矢じり、石包丁などの石器、炭のようになったクルミ。石で囲んだ炉が発見されている。付近には井戸淵（いどぶち）、矢洗など多くの遺跡がある。この辺りは日当たりがよく阿武隈川の魚を食料にできる場所である。

東大枝字林正寺　D-2

3 住吉館跡（徳本寺）

台地に築かれた平館で土塁と水堀を巡らせた室町時代の初め頃に作られたとされる。郡内の平館の中で最も整った館と言われる伊達氏の分家である大條（おおえだ）氏の根小屋であったと考えられている。後に大條氏の菩提寺の徳本寺が町裏から移されたが土塁・堀が良く残され県内でも当時の姿を伝える数少ない館跡である。

東大枝字住吉　D-2

4 秋葉神社

字住吉の徳本寺境内にあり祭神は秋葉三尺坊大権現。祭礼日9月第3日曜日に法要を行われていた。徳本寺の守護神である防火、養蚕の神として信仰された。昭和中頃まで「講」もあったが今は途絶えた。

東大枝字住吉　D-2

5 宗吾郎神社（宗吾霊堂）

義民として名高い佐倉惣吾郎を千葉県成田市東勝寺の「宗吾霊堂」の神霊を大正時代の後期に勧請した。阿武隈、広瀬川に挟まれた地帯は度重なる洪水による川欠で境界紛争があり論地（ろんち）と称され、特に大正7年の紛争は訴願提出に至り勝訴成就を願って祀ったと伝えられる。8年間に及ぶ論争は鬼石を起点として協定が成立した。

東大枝字東荒田　C-2

6 大悲山（だいひざん）国宝院観音堂

平安時代（10世紀頃）越前の僧によって字東五反田に開山されたもので、室町時代の応永年間（15世紀頃）に大枝城主大條孫三郎宗行が城内の二の丸に移したと伝えられる。その後、寛政年間（18世紀）に現在の北町に移ったという。本尊は聖観音菩薩で本山は天台宗の比叡山延暦寺。祭礼は4月・8月。

東大枝字北町　C-2

7 雷神山の伝説

桑名（くわな）、後に訛って桑原（くわばら）という男が天から落ちた雷神を助けてやった。雷神は御礼にこれからは桑原の苗字の人や桑畑には落ちないと約束をすると言い残して天に帰った。今でも雷が鳴った時「くわばら」「くわばら」と唱えたり桑畑に逃げ込めば安全だと言う。その時の雷神を祀ったのが雷神山だと伝えられている。

東大枝字雷神山　C-2

8 西根堰旧河道

穴原の摺上川から五十沢までおよそ29.2kmの用水路で寛永9年（1632）に9年をかけて完成した。工事は上杉氏の代官古川善兵衛と郡役佐藤新右衛門、大枝の新左衛門らを中心に進められた。土地に高低差が無く、100mの等高線に沿って山の麓を南に北に廻り完成した。雷神山付近は明治時代に掘られた隧道や旧水路跡が残る場所である。

東大枝字雷神山　C-2

9 熊野神社

福島県内では、稲荷神社についで熊野神社の数が多い。熊野修験が古い時代から和歌山県の熊野三社の信仰を広めた。村や家を守り、人々の願い事を叶える神を祀っている。この神社は酒井家の先祖が三河（愛知県）から移住した時に祀ったものと伝えられ、今でも酒井家や高原（たかばら）部落の人々が中心となり講を開いている。

東大枝字高原　C-3

10 愛宕神社

愛宕神社は、家を火災から守る神を祀っているので見晴らしの良い高台に建てられている。万一、火事になった時にいち早く発見できるためだと言われる。この神社も愛宕山と呼ばれる東大枝の家並みが良く見える場所にあり、昭和３年の大枝大火のとき、直前に火柱が立つ前触れがあったと言う。火難除けの神社。

東大枝字愛宕山　C-3

11 虚無僧塚（こむそうづか）

むかし新田部落の中央に大きな松の木が生えていた。そこで、旅の虚無僧（こむそう）二人が斬り合いをし、勝負がつかず互いに倒れてしまった。
仇討ちだった。部落の人達が、ねんごろに葬り虚無僧塚と名付けた。しばらくすると、虚無僧塚から光が見えるので、供養塔を倒すと見えなくなった。石塔は今でも倒したままである。

東大枝字石仏　C-3

12 荒神社（こうじんじゃ）

字西金谷にあり　部落の守神として文化10年（1813）に創祀された。祭神は三宝大荒神を祀り神明神社に御神刀を造り奉納したと伝えられる。村郷土史に載っている神明神社什寶器に神刀（久国銘一口か）現在の社殿は滑沢出身八島清氏の特別寄進により平成13年12月16日再建した。社宮後にあるけやきの大木は二代目である。

C-3

13 百姓館跡

字金谷と姥懐（うばふところ）の境界を南に延びる山地の稜線上（標高121m）に位置する山館で長径70m短径50mのほぼ楕円状を示している。文治5年（1189）の奥州合戦の際、軍勢を多く見せる為、近くの百姓達を駆り集めて旗指物を押し立てたとされる。伝承の域ではないが戦国期における野戦用の砦遺構と見られる。

東大枝字西金谷　B-3

14 物見山（弁天山）

国見町と宮城県白石市の堺にあって標高287m、東大枝の最高峰で眺めが大変良い。頂上には栃窪（とちくぼ）部落で祀った弁財天の祠があり、「弁天山」とも呼ばれている。発掘調査で石を積んだ防塁状跡、土を削って火を焚いた跡を確認。厚樫山の合戦や霊山での戦いなどに物見を置き「のろし」をあげて合図した場所と伝えられる。

東大枝金谷山1-46　A-3

15 神明神社

旧大枝村の村社で延久２年（1070年）まで字町裏にあったが大條孫三郎宗行（おおえだまごさぶろうむねゆき）が今の地に移し、大條家の氏神として祀った。祭神の天照大神は国を守り農業・養蚕を盛んにするとされ、多くの参拝者がおとずれた。天正19年（1591年）大條氏は宮城県に移る。その後、旦理郡坂元にも神明神社を祀っている。

東大枝字神明　D-3

16 山田川

山田川付近は、梁川層と呼ばれる、およそ1600万年前の地層で、ホタテ貝のなかま、二枚貝・巻き貝・サメの歯などが発見されている。梁川層は広瀬川下流や阿武隈川沿いにあり、海底に積もった火山灰などが固まったもので、その頃海に住んでいた生物も含まれている。海の深さ30～50m程で水温も房総半島の南ぐらいだったと考えられている。

東大枝字神明前　D-3

17 西下町遺跡

発掘調査によって計画的に作られた掘立柱の建物跡が多数発見された他、暮らしに使われた陶器、石臼、鉄製品や井戸跡なども見つかった。大枝城があった室町時代には根小屋集落のあった場所と考えられる。「水が上がる土地なので台地の現在地に移った」と伝えている。この中世遺跡の地下に縄文遺跡が重複している極めて珍しい遺跡である。

東大枝字西下町　D-3

18 大枝城跡

大枝城は標高74.3mの丘を生かして作られた平山城。南側に阿武隈川が流れ急な崖があり、北側は二重の土塁と空堀で敵に備えた。8代伊達宗遠の次男大條孫三郎宗行が大枝を領地とした室町時代の初めに築かれた。その後7代の居城となった。天正19年（1591年）伊達政宗の国替えによって7代宗直は伊具郡大蔵村に移り、のち8代宗綱は坂本城主になった。

東大枝字館　D-3

19 鬼石伝説

征夷大将軍坂上田村麻呂が奥羽鎮定の命を受けこの地にやって来た折、賊軍に囲まれて危うく命を落としそうになった。その時聖観世音菩薩におすがりしたところ突然大鬼神が現われ賊軍を追払ってくれた。梁川橋上流で阿武隈川と広瀬川の合流点にある7間四方の岩盤の上にある石が大鬼神の化身と伝えられ、鬼石と呼ばれ、境界の目印とした。
近年の河川工事により現在は確認できない。

東大枝字小中島　D-4

■住所表記は福島県伊達市梁川町を省略　■ A-0 は裏面の地図の位置